

## これからも仲むつまじく！おめでとうございます

### 金婚式で66組のご夫婦を祝福

多久市では11月16日、結婚50年目を迎えられた66組のご夫婦を中央公民館に招き、金婚式を行いました。

横尾市長が一組一組に祝状を渡し、「人生行路を2人で力を尽くし、心を寄せて歩まれた50年に心から敬意を表します。長命で、これからも仲むつまじく、お暮らしてください」と祝福。また「金婚の記念に、来年3月に本市である“NHKのど自慢”にチャレンジしてはいかがでしょう」と提案もしました。出席者を代表して、小川一男さん、潤子さん夫婦（山犬原）が「振り返ると万感胸に迫るものがあり、喜びも悲しみも幾年月。今はただ、2人揃って無事に50年目の結婚記念日を迎えられたことが嬉しい」と謝辞を述べ、数々の心温まる祝辞にもお礼を加えられました。



▲横尾市長が一組一組に祝状を手渡した金婚式

## 復活「西多久音頭」もなつかしむ

### 西多久ふれあいまつり

11月9日西多久公民館で、西多久ふれあいまつりが行われました。13回目となるふれあいまつりで、保存会による太鼓浮立・老人クラブなど文化サークルの詩吟や舞踊、ハワイアンフラダンスなどの発表、西部小児童による作文発表や放課後子ども教室「にこにこクラブ」が「つるのおんがえし」を披露。また、今年は40年位前に歌われていた「西多久音頭」を復活させ、西多久の愛唱歌にしようと取り組まれており、その発表と歌唱指導もありました。午後からは、恒例の綱引き大会とバーベキューによる親睦会もあり、一日中和やかな雰囲気の中、大勢の町民が懇親を深められました。

なお、太鼓浮立保存振興会は、青少年育成団体として11月22日、佐賀県青少年育成県民会議表彰を受けています。



▲各区の力自慢達が代表で競う行政区対抗綱引き。今年は「女山チーム」が優勝



▶太鼓浮立保存振興会のみなさんによる太鼓浮立の披露

## 長い間、ありがとうございました

### 文化交流会館『なかしま』最後の一般公開

11月7、8の両日、解体を前に一般公開した文化交流会館『なかしま』には、市内外から約300人の参観者が訪れました。

『なかしま』は、多久炭鉱主の故中島茂氏の邸宅で、昭和15年に建築とされており、当時としては珍しい外国産の木材を多く使用。18室ある部屋とその作りは、炭鉱主の豪華な暮らしを伺わせる洋風も取り入れられた日本家屋です。昭和39年11月に市に一部寄贈され、市民の文化活動の場として活用されていたものの、平成19年4月からは、老朽化のため休館。安全性や高額な維持費などの問題もあり、今年3月議会で解体することを決定しました。建物の買収や移築なども検討されましたが、やむをえず今年度中の解体となります。



▲大勢の参観者が見納めた文化交流会館『なかしま』